

“街のコンシェルジェ” 中延センター・オープン

(1号店)

NPOバリアフリー協会

日常生活で不便を感じている方々、

困ったときはご連絡ください!

“街のコンシェルジェ” (有償ボラ)

がお手伝いします。

◆センター所在地:

品川区東中延2-6-19

電話 : 0120-39-0405

県外から: 03-3782-8802



「街のコンシェルジェ (街中サロン) 事業」開設

かねてより計画中の「街のコンシェルジェ (街中サロン) 事業」(略称: 街コン) は、中延商店街振興組合のご支援の下、中小企業庁及び東京都の「空き店舗対策事業補助金」対象事業に決定し、04年11月オープンいたしました。

<当・街コン事業の内容は>

品川区中延商店街を中心に、日常生活で不便を感じている方々を、中高年のコンシェルジェ (有償ボランティア) が支援する仕組。

家事支援 (食事づくり、掃除や洗濯など)、軽修理 (電球・パッキンなどの取替)、話し相手、送迎サービスなどを有償で提供。

その対価は、中延商店街の商品券に交換。いうなれば、超高齢社会の相互支援と商店街の活性化をねらった日本初?のプラットフォーム事業と言えるのではないのでしょうか。そして中高年の交流を促進するため・出会いの場“街中サロン”を設け、“楽習教室”を開催しております。

<事業主体>

- ・中延商店街振興組合
品川区中延3-7-10
03-3786-0201
- ・NPOバリアフリー協会 (本部)
品川区東大井4-4-20
03-3471-7141

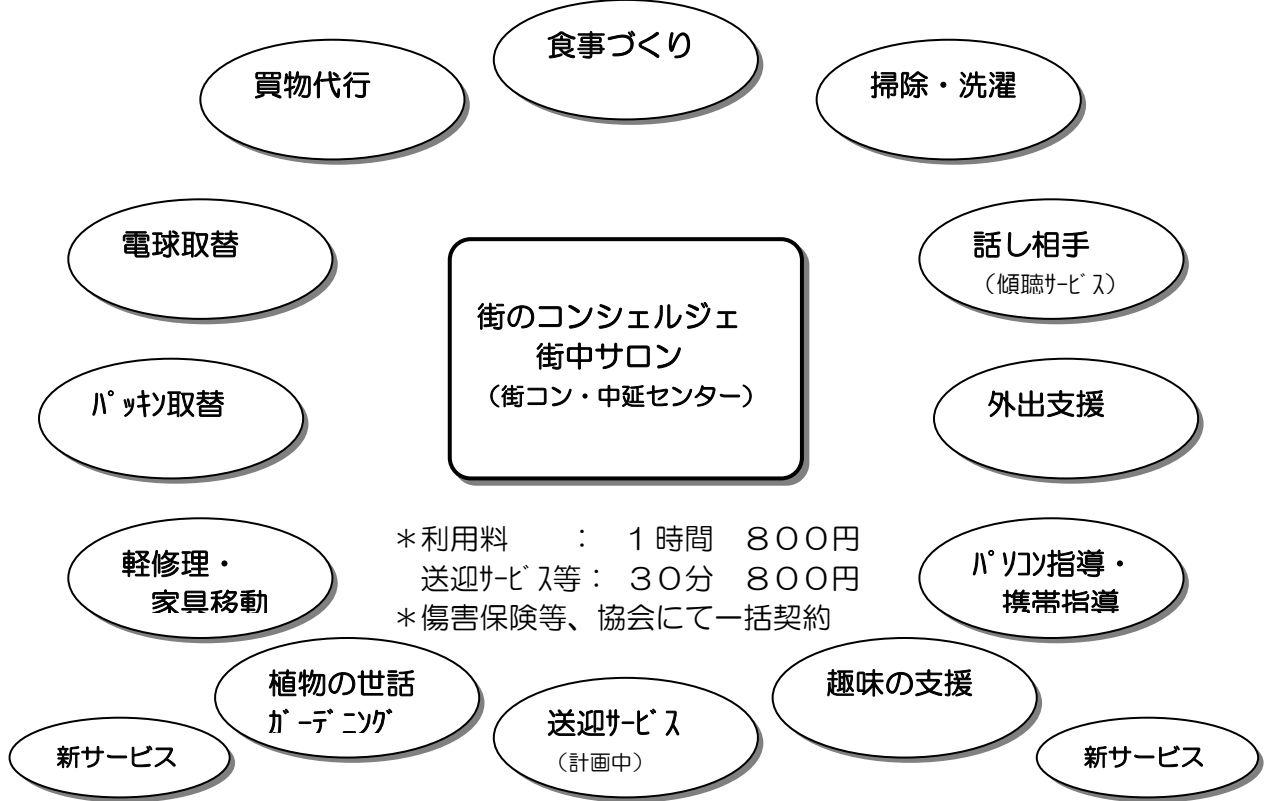
<協力企業> ~敬称略~

- ・板橋区役所前診療所
- ・トヨタ車体
- ・ウエシマコーヒー
- ・虎屋
- ・大塚製薬
- ・ニチレイ
- ・紀文食品
- ・キリンビール
- ・資生堂
- ・大成祭典
- ・タニタ

“街のコンシェルジェ” のサービスメニュー

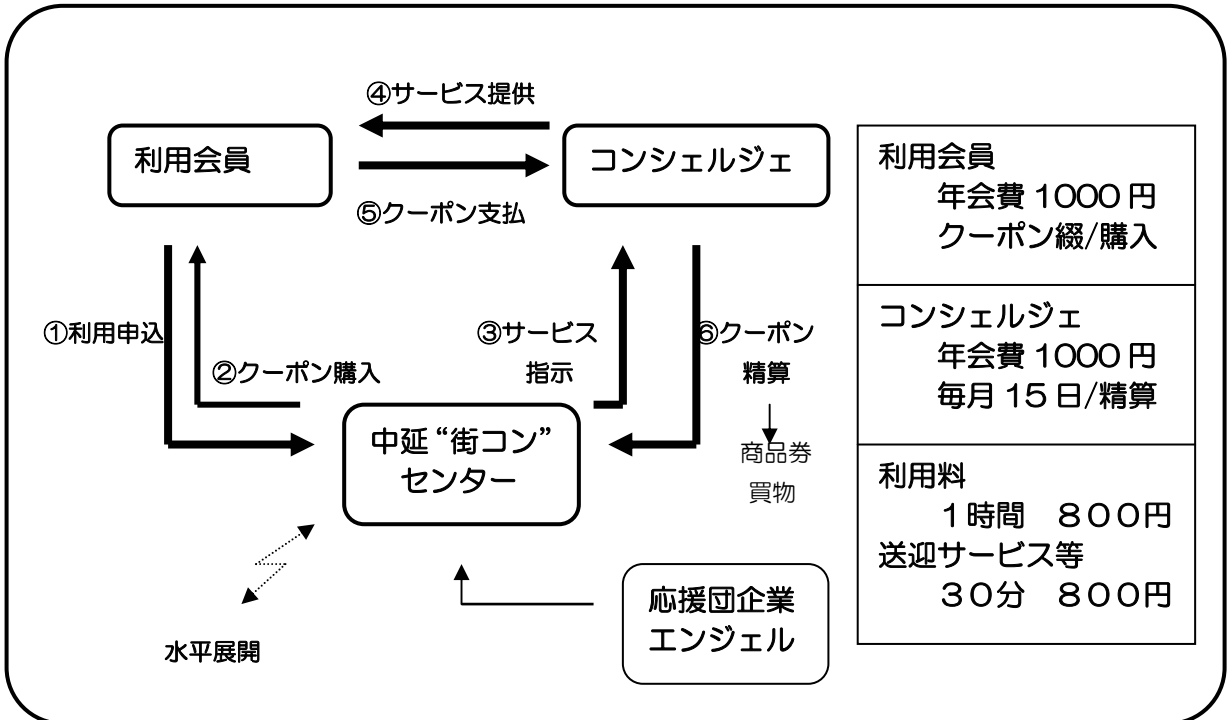
◆日常生活のちょっとした不便を代行◆

◆あなたの自由な時間を得意技で社会貢献◆



*利用料 : 1時間 800円
送迎サービス等 : 30分 800円
*傷害保険等、協会にて一括契約

“街のコンシェルジェ” サービスの仕組み



街のコンシェルジェ（1号店）中延センターの特徴

品川区東中延2-6-19 電話：03-3782-8802

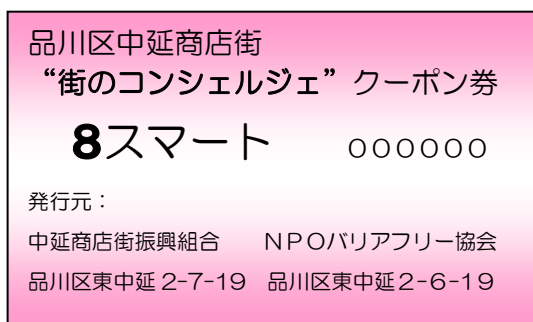
◆特徴◆

- ①超高齢社会（高齢化率21%～）と商店街活性化を結びつけた事業です。
- ②高齢者及び高齢世帯の“困り事”を、コンシェルジェ（有償ボランティア）が支援する“共助の事業”です。
利用客及びコンシェルジェともども会員登録をしていただきます。
- ③コンシェルジェ（有償ボランティア）は、利用客から“クーポン券”（@800円、地域通貨）を受取り、毎月15日に地元商店街で利用できる“商品券”（@500円）と交換。
差額分（@300円）は事務手数料に充当します。
- ④社会貢献を希望される方々にとって、感謝されながら“生涯現役”を続けられます。
- ⑤高齢者の“たまり場”「街中サロン」を設けています。
ここでは、自由な出入りとあわせ「楽習教室」を開催します。
肩ひじ張らずに楽しく過す「食」「健康」「趣味」「PC」などがテーマとなります。講師はコンシェルジェの中から発掘します。
つまり街中サロンは、“地域デビューの場”となります。
- ⑥当事業は、おおむね半径1kmの「小商圈」を鉄則とし、地域密着による“最高の満足度”を追い求めます。
商圈外の方々にサービスを実施しますと、満足度低下の恐れがあります。

“クーポン券”（地域通貨）／地元商品券のイメージ

クーポン券（サンプル）
8スマート＝¥800円

商品券（サンプル）
¥500円
品川区商店街振興組合／発行



* 差額は、運営費に充当

高齢者と機能低下

～加齢こそ、価値がある社会～

NPO・バリアフリー協会

<二倍速の高齢化> ～少子・高齢化～

- ◇65歳以上の高齢者 2,556万人
 - ・8割強は元気（高齢化率＝20%）
- ◇平均寿命は“世界一”
 - ・男：78.36歳、女：85.32歳
 - 戦前は「人生50年時代」今や「80年時代」近未来は「人生100年時代」
 - ・65歳からの余命をみると
 - 男：82.34歳、女：87.44歳

<加齢と白内障> ～視覚機能の低下～

- ◇白内障の発生頻度
 - ・50代 ⇒ 60%
 - 60代 ⇒ 80%
 - 70代 ⇒ 90%
 - ◇白内障の人は、濃・淡がはっきりしない組合せは、判読できない。
 - X ⇒ 白と黄色、黒と青など
 - O ⇒ 黄色と黒、白と緑など
- 主要国際空港、大江戸線

<加齢と難聴> ～聴覚機能の低下～

- ◇70db未満の難聴者：約500万人
- ◇伝音性難聴：外耳、中耳の機能低下（補聴器・可）
- 感音性難聴：内耳、聴神経の機能低下（補聴器・効果小）
- ◇骨伝導機器が面白い

<加齢と口腔> ～口腔機能の低下～

- ◇加齢に伴う咀嚼力と嚥下力の低下
 - ・咀嚼力：噛む力（握力と連動）
 - ・嚥下力：飲込む力
- ◇新しい食のシーンの創造
 - ・会食、共食など

<加齢と指先> ～上肢機能の低下～

- ◇指先力と握力の低下
 - ・ペットボトル、プルトップ、食品包装が開けづらい
 - ・ドアノブ、ガス・水道の栓がひねりづらい

<加齢と足> ～下肢機能の低下～

- ◇早く歩く人は“長生き”、遅い人は？
 - ・加齢により、歩行速度が落ち、歩幅が狭くなり、100～150mでドッコイしょと腰を落とす。
 - ・歩行速度の目安“60m/分”以上
- ◇安くて安心な送迎サービスは？

<加齢とオシャレ>

- ◇年をとってもオシャレはしたいもの
 - ・化粧品、ファッション、その他
 - ・百貨店

<加齢とクチコミ>

- ◇中高年には“クチコミ”が効果的

NPOバリアフリー協会 ご案内

特定非営利活動法人



■使命■

<加齢こそ、価値がある社会づくり>

2015年には、4人に1人が“高齢者”（65歳以上）となる「超高齢社会」（高齢化率21%以上）が目前に迫っています。多くの人々にやさしい社会をつくるには、どうすればよいのでしょうか。

人は年齢とともに、目や耳あるいは手や足など“加齢による機能低下”が生じてきます。勿論、先天的に障害を持つ人、交通事故や妊娠などによる一時的な障害者もたくさんいらっしゃいます。

これらの機能低下者や障害者が、健常者ともども「自立した快適な生活」を送るため「バリアフリー（BF）」や「ユニバーサルデザイン（UD）」を推進しようと考えております。それも“点”に止まらず、“点”から“線”へ、“線”から“面”へと展開する必要があります。“モノづくり”から始まり“コトづくり”や“マチづくり”そして“ユメづくり”を心がけてまいります。

*バリアフリーとは、1974年の国連・障害者生活環境専門家会議報告書「バリアフリーデザイン」から端を発し、日本では当時の建設省が公団住宅で「段差のない住宅」として取り組んだ。その後「段差解消」にとどまらず「心のバリアフリー」などとして広く解釈されるにいたっている。

*ユニバーサルデザインとは、1990年米国のロン・メイス教授らを中心に「最初から段差や障害のない建築やモノやサービスをつくる」という考え。つまるところ「多くの人が暮らしやすい社会をつくる」と解釈でき

■対象■

BFやUDの商品とサービス等を整理するために、機能低下や障害を次の7カテゴリーに分類してみました。

- 視覚障害/Visually Impaired
- 聴覚障害/Hearing Impaired
- 口腔障害/Oral Impaired
- 上肢障害/Dexterity Impaired
- 下肢障害/Mobility Impaired
- 知的障害/Intellectually Impaired
- 若さ願望/Forever Young

■組織■

理事長：井関利明（慶應義塾大学名誉教授）

理事：勝又基夫、小西洋、佐々木浩二、嶋口充輝、白石正明、谷口正和、
豊川圭一、保芦将人、

評議員：黒川光博、羽田克巳

監事：高城俊郎

専務理事：沢田藤司之

■活動■

95年：日経「フォーラム」運営受託、96年：建設省「タウンモビリティ・TM」導入調査（武蔵野市、柏市）、97年：「TM」ダイエーに導入、98年：「TM」各地へ導入、99年：「TMと賑わいまちづくり」出版、テレビ大阪・番組に出演、

00年：通産省「ショップモビリティ」導入実験（神戸市長田区）、東京商工会議所等と「アイデアコンテスト」実施、01年：中高校生向け課外授業実施、NPO法人取得、02年：各種の研究調査受託、03年：各種の研究調査受託、04年：「街のコンシェルジェ」1号店出店、05年：東京都「商店街グランプリ」優秀賞受賞、経産省「水平展開研究調査」受託、06年：経産省「がんばる商店街77選」